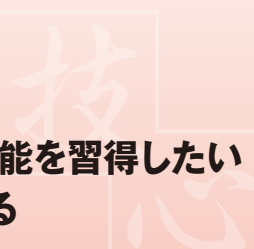


事例 8

和裁



ものづくりマイスター派遣先

愛媛県立伊予農業高等学校

〒799-3111 愛媛県伊予市下吾川 1433

概要

(H27.7 取材当時)

学校長 奥野 勝也

沿革
 大正7年 伊予郡立実業学校設立
 大正11年 愛媛県立伊予実業学校と改称
 昭和19年 愛媛県立伊予農業学校と改称
 昭和23年 愛媛県立伊予農業高等学校と改称
 昭和24年 愛媛県立松山南高等学校伊予分校と改称
 昭和27年 愛媛県立伊予農業高等学校として独立

学科 生物工学科、園芸流通科、環境開発科、食品化学科、生活科学科、特用林産科

卒業生総数 16,875名

教職員数 74名

和裁の分野で高度な技能を習得したいと願っている生徒がいる

伊予農業高等学校は、愛媛県の農業教育の基幹校としての役割を果たすため、農業や家庭科目を中心に生活全般について学習する生活科学科など6学科を設置しています。

生活科学科には2年生から3年生まで被服(和裁・洋裁)について専門的に学ぶ選択コースがあります。和裁の分野で高度な技能を習得したいと願っている生徒に対して指導を行う必要があり、ものづくりマイスターの派遣をお願いすることにしました。



田中、山本マイスターの指導の様子

カリキュラム

期間	平成26年9月～12月
実施場所	愛媛県立伊予農業高等学校
受講者数	14名

	指導日	指導内容
1	9/25	指ぬきの使い方、くけ台の使用の仕方、部分縫いの仕方の補助説明、着物のえりづくりについて講習。
2	10/9	ひとえ長着のえり付け、ハチエリの作成、右みごろとあわせてえり付け、芯を用意してえり芯をつける作業を行い、説明及び確認。
3	11/13	ひとえ長着のそで付け、わきおくりの合わせ等、ヘラの合わせ間違い、ヘラの間違い等による不つりあい等の原因と調整の仕方について指導。
4	11/14	
5	12/8	右みごろのわき合せ、おくり付けをしてそれぞれ合印をつける。えり付のピンを打ち、肩まわりの付け方の確認。すその三ツ折り、えり下の寸法、左右の寸法を確認して印付け。その他個々に気になる点のチェック。

授業の効果を最大限に引き出す アイデアを提案する

● ● ● 普段の授業の中に、生徒の技能を引き出す 「ひと工夫」を加える

和裁の基本中の基本である「部分縫い」を始め、あれも教えたいこれも教えたいのですが、限られた指導時間では全て行うことはできません。生徒は知らないことがいっぱいあるので、興味を持ってもらえるような事を関連づけて話しています。例えば、生徒が仕立てている途中で、できない生徒には「ここをこうすると綺麗にできるのよ」とフォローしたり、できた生徒には「ここを、こうするともっと綺麗になるのよ」とアドバイスしたりするように心掛けています。実習に当たっては、授業の進行や生徒達にできる限り負荷をかけないよう、新たな練習を加えるのではなく、既に授業の中で行っている練習内容に「ひと工夫を加える」ことを基本としました。例えば「部分縫いの練習に使う布の長さを、あと30センチ伸ばすこと」です。これだけでも、生徒の針や糸の使い方を飛躍的に向上させることができるのです。

● ● ● 先生との打ち合わせ、教え方の検討など 事前準備を念入りに行う

授業の効果をより引き出すアイデアを考えるため、指導の事前準備には時間をかけました。先生と「授業の全体計画の中で、どのタイミングで何を教えることが最も効果的か」を話し合い、指導日程を決め

ました。その上で、教えるポイントについて二人で打ち合わせをして共通認識を持ちました。指導の当日は、早めに学校に伺って先生と打ち合わせを行い、自分たちの考えた教え方を、授業の中にどう取り入れるかを決めました。こうすることで、授業の進度や生徒の練習の負荷を必要以上に増やさずに効果的な指導が行えるようになりました。

授業には必ず着物を着ていきました。そうすることで、授業中に実際の着物を見せて教えられて生徒の理解も早くなるからです。着物を着ることの楽しさを伝えて着物を好きになってほしいと思います。

指導に伺って、まず感銘を受けたのが、先生方の指導にかける熱意です。様々なジャンルの被服製作技能を学び、より良い授業作りを追求する姿を見て、ぜひ私達もサポートしたいと強く感じました。

● ● ● 受講者の「やってみよう」という 気持ちを引き出していきたい

日本人には着物がよく似合います。私自身、和裁の世界に入ったのは「自分で着る着物は自分で作りたい」という思いからでした。

興味さえ持てば、自然とやる気は出ますし、難しい練習にも粘り強く取り組みます。指導では、生徒に和服の良さとそれを作る技能を身につけることで、自分の技能の幅が広がることを伝え、「まずはやってみよう」という気持ちを引き出すようにしました。



ものづくりマイスター(写真左)
田中ひとみ (たなかひとみ)

昭和28年10月3日生まれ
平成5年度 1級技能士 和裁(和服製作作業)取得
平成25年度 厚生労働省ものづくりマイスター
(和裁)認定

ものづくりマイスター(写真右)
山本眞規子 (やまもとまきこ)

昭和33年6月11日生まれ
昭和63年度 1級技能士 和裁(和服製作作業)取得
平成25年度 厚生労働省ものづくりマイスター
(和裁)認定



授業に「ひと工夫」を加えることで 生徒の可能性を大きく引き出した

和裁の技能の指導に当たり 専門的な指導を必要としていた

本校では、これまで環境開発科の造園分野で「ものづくりマイスター制度」を導入していました。その担当教員から、私が教える生活科学科でも活用できるのではないかと薦められたことが、この制度を知るきっかけでした。家庭科は、15人ほどの生徒を2名の教員で担当しており、生徒の指導に当たっては、指導力を上げなければと考えていたので、すぐにお問い合わせを決めました。

授業の進み具合に合わせて ものづくりマイスターが柔軟に 対応して下さった

ものづくりマイスターの指導回数に制限がある中、効果的な指導を行っていただくため、授業の進み具合に合わせたスケジュールの調整が必要でした。

加えて、学校行事や時間割の変更等も発生しましたが、生徒の進度に合わせて柔軟に来校日を調整して下さったのでとてもありがたかったです。授業前の打ち合わせと、終了後の意見交換を必ず行い、次の予定を計画することを繰り返すことで、段取りよく指導ができました。

ものづくりマイスターからの 提案やアドバイスで授業の質や、 生徒の良さが引き出された

授業を組み立てる際、ものづくりマイスターからの提案を受けて、練習や指導の方法を改善しました。

また、生徒一人ひとりを大切にいただき、ただ褒めるだけでなく具体的な良さを見つけてそれを引き出すアドバイスは、生徒にとって大きな励みになったと思います。理論と技能の両者を理解して縫うと、より効率が高まり、早く綺麗に作品を作ることができると実感したことでしょう。長年専門的な技能を磨いてこられたものづくりマイスターの来校により、



中岡 由美 教諭



岡本 映美 講師

技能を身につける事の大切さ、社会で人に役立つすばらしさなど、これからの生き方について考える良いきっかけとなったと思います。

作業の方法や教え方は 一つではない

立場の違う指導者が同じ場所で同じ目的を持って生徒を指導していくことは、生徒にとって一石二鳥でとてもよい経験でした。生徒に意欲が出てきて努力することは、これからの生活で役に立つことであると思います。

私自身、改めて高校家庭科教諭の責任を問い直すよい機会となりました。方法や教え方は1つではなく、より良い縫い方を紹介していただくことができました。「ものづくりマイスター制度」をできる限り活用し、充実した実習の時間を過ごしていきたいです。



田中マイスターの指導の様子

受講者の声

「ものづくりを通じて、人の役に立ちたい」という思いが強まった



岡田 美里さん



大政 由衣さん



渡部 彩夏さん

● ● ● 技能の練習に対する姿勢が 大きく変わりました

実際に仕事として和裁にかかわっている田中・山本両マイスターの話や細かな指導を受けられたことは大変勉強になりました。具体的な技能に対する指導以上に、練習に対する取り組み方について、お話を聞いたことが良かったです。特に、「練習するときは一針一針を気をつけて。」「最初は時間が掛かるけれど、いつも気をつけていたら自然と速度が上がる。」「本当に気をつけてやるのが一番」というお話が参考になりました。日々の練習や被服製作では、早く完成品に



練習風景

したいという気持ちが生まれ、先を急いでしまいがちになりますが、そうではなく、落ちついて自分の苦手な部分、できていない部分を意識して、一つひとつの作業に納得しながら進める姿勢を持つようになりたいと思います。

● ● ● 「人の役に立つものを作りたい」という 新しいモチベーションが生まれた

これまでは「自分の技能を上げなくては」「期限までにきちんとした作品を作らなくては」という気持ちで焦っていたこともあり、授業で習うことも、それぞれが独立したパーツのような感覚になっていました。それが、田中・山本両マイスターのお話を聞いたことで、「ものづくりを通して人の役に立ちたい」という意識が強まり、そのために一つひとつの練習を確実に積み上げていくんだという気持ちを持つことができました。「将来、仕事や家庭の場などで、小物や服を作ってあげたい」というモチベーションが生まれ、苦手な練習にも前向きな気持ちで取り組めるようになりました。

地域技能振興コーナー担当者より

伊予農業高等学校では、環境開発科で「ものづくりマイスター制度」を利用していた経緯があり、その実績が活かされて新たに和裁の分野でもものづくりマイスターを派遣することとなりました。本制度を有効利用していただき、良い相乗効果が生まれたことはとても嬉しく思います。ものづくりマイスターと

受入先の先生との意見交換を行い、先生の教え方や練習方法に、ものづくりマイスターの知見や経験を踏まえた「ひと工夫」を加えることなどで、限られた時間の中でも受講者へ技能を伝える事ができます。そのための橋渡しを地域技能振興コーナーは最大限努力をしていますので、是非一度ご相談ください。